

ワールド・キッズ・ネットワーク 活動報告 2024

私たちは「外国につながる子どもと家族」の学びと暮らしを支え、「多文化共生のまちづくり」を進めています。2024年度の活動は次の通りでした。

こども日本語教室「シランダ」

来日直後の子どもの日本語学習や、通学している子どもの教科学習を手伝いました。また、小・中学校への編入までの対応や、様々な相談にも対応しました。2024年度は、ひろ協働センターで127回実施しました。

・月曜日 10:00~11:30	・金曜日 10:00~11:30	・土曜日 14:00~16:00
編入前の子ども・就職前の若者対象		年長児からの子どもたち対象
35人(延436人)が参加し、スタッフ9人が支援しました。 背景は、フィリピン12人・ブラジル7人・ミャンマー4人・中国3人・ベトナム3人・日本4人・タイ2人、就学前3人・小学生17人・中学生2人・高校生1人・若者と保護者12人でした。		



放課後クラブ「アミザージ」

木曜日の放課後、白岳小学校の国際教室で、日本語学習や宿題を手伝いました。2024年度は、36回実施しました。白岳小学校に在籍する外国につながる児童24人(延529人)が参加し、スタッフ5人が支援しました。学年は、1年3人・2年2人・3年4人・4年8人・5年4人・6年3人、つながる国

は、フィリピン6人・ブラジル5人・中国5人・ミャンマー3人・ベトナム2人・インドネシア1人・ネパール1人・ペルー1人でした。



★はじめに、パステルで自画像を描きました。 ★最後は、3人の6年生を送る会をしました。



放課後クラブ「ジニア～絆を忘れない～」

水曜日の放課後、白岳中学校で日本語学習や学校の宿題を手伝いました。2024年度の活動は24回で、在籍する5か国の生徒4人(延61人)にスタッフ3人が支援しました。生徒の学年は1年2人・3年2人、国籍はベトナム2人・フィリピン2人でした。



つくって味わう国際交流 ～00の台所～

子ども教室の保護者や地域日本語教室の学習者の協力を得て、呉市広会館との協働事業として取り組んでいる「多文化共生のまちづくり活動」の1つです。2024年度は、中国・フィリピン・ブラジル・ベトナム出身のゲストを迎え、料理を通して交流し互いに理解を深めあいました。

①	5月21日(火)	中国の台所	ゲスト：姜さん他	14人参加
②	7月30日(火)	フィリピンの台所	ゲスト：細川さん他	13人参加
③	10月29日(火)	ブラジルの台所	ゲスト：サンドラさん	20人参加
④	1月29日(水)	ベトナムの台所	ゲスト：ヴァンさん他	18人参加

中国の台所	フィリピンの台所	ブラジルの台所	ベトナムの台所
			



多文化まちづくり講座

広会館とのもう1つの協働事業です。多様な文化を体験的に楽しく地域の皆さんに紹介し、多文化共生のまちづくりを進めます。

2024年度は、インド留学から帰国した大学院生と、タイから移住した5人家族のお母さんをゲストに迎えました。どちらの会も、発見が多く楽しい講座になりました。

ゲストにとっては、地域デビューの機会になりました。

①	9月27日(金)	独特な世界観と急成長の超大国！ インド文化社会講座	講師：佐々木さん	25人参加
②	3月4日(火)	「微笑みの国」 タイの人々の暮らしを知る	講師：ジョイさん& ボンさん&石田さん	14人参加

インドで出会った価値観と帰国後の日本での葛藤

- ・ 迷惑をかけてもいいインドの環境⇔迷惑をかけてはいけない日本
- ・ いつでも電話をかけてくるフレンドリーさ⇔遠慮してすぐに電話できない
- ・ すぐに予定が決まる⇔社交辞令
- ・ 自分のことのように親身⇔自分のことで忙しい
- ・ みんな違ってみない⇔日本の同調主義
- ・ まったり過ごす時間が大切⇔一息つける時間が少なすぎる

— 50

本日のゲストは ジョイさん&ボンさん



呉市地域パートナーシップ支援事業



令和6年度呉市地域パートナーシップ支援事業に応募し、助成を受けて以下の活動を実施しました。

①	8月25日(日)	外国につながる家庭のための高校進学ガイダンス 35人参加(11家族と関係者)
②	8月31日(土)	外国につながる家族の集い 55人参加(9家族と学校関係者・支援者)
③	1月 4日(土)	外国につながる家族のサンバ体験交流会 47人参加(12家族と学校関係者・支援者)
④	2月 8日(土)	外国につながる家庭のための学校生活ガイダンス 48人参加(学校関係者・保護者・支援者)
⑤	3月 8日(土)	支援者研修会 20人受講

① 外国につながる家庭のための高校進学ガイダンス * * * * *

- ・日 時 : 令和6年8月25日(日) 15:00~17:00
- ・場 所 : 広まちづくりセンター 502
- ・参加者 : 35人
 - ・外国につながる参加者 19人 (5か国 8家族)
(中国・ブラジル・フィリピン・インドネシア・ベトナム)
 - ・ゲストと支援者 16人
豊田高校/呉工業高校/呉高校/呉港高校/清水ヶ丘高校
呉市教育委員会/呉市国際交流協会
ひまわり21/ワールド・キッズ・ネットワーク

内 容

- ① 下記5校が、学校の特色・授業の内容・入学試験・入学時とその後の 費用・外国人生徒の学校生活の様子などについて、スライド等を使って分かりやすく説明してくれました。
 - ・豊田高校 徳永教頭先生 ・呉工業高校 清水校長先生
 - ・呉市立呉高校 山根教頭先生 ・呉港高校 出崎先生
 - ・清水ヶ丘高校 仲舂校長先生
- ② 中学校生活の中で大切な心構えについて、伝えてくれました。
 - ・白岳中学校 大島校長先生
- ③ 奨学金等や多言語での情報・相談窓口について紹介がありました。
 - ・呉市国際交流協会 竹下さん
- ④ 外国につながる先輩が、自分の体験を話してくれました。
 - ・サファノ プラタマ サカイ君 豊田高校1年 (インドネシア)
 - ・リュウオ ジアス君 呉工業高校1年 (フィリピン)

⑤ 質疑応答と感想



高校と中学校からのお話



奨学金情報



先輩にインタビュー



高校に進学したサファノ君とリュウオ君が、自分の言葉で、高校生活や気持ちや考えをしっかりと話してくれました。

学校と地域両方で、小学校低学年から長く関わってきましたが、受験と高校での新生活を経て、大きく成長したことを実感しました。

以下、2人のインタビュー記録です。

サファノ君（豊田高校1年）

Q：高校にがんばっていているようですね。高校生活はとうですか。

行くのはたいがいけど、新しい友だちができたし、おもしろい先生がいるから楽しいです。

Q：友達いっぱいできたんだね。おもしろい先生ってどんな先生。

おじいちゃん先生で勉強の話より、ほかの話がおもしろい。ものの考え方とか生き方の話を聞くのが楽しいし、あきないです。

Q：へー、その先生の話で、心に残った話を教えてください。

「楽しいから笑顔になるのではなく、笑顔でいるから楽しくなる！」

これは、カードゲームの中で出てくる言葉だったと思います。

Q:どういう意味じゃろう。

笑顔でいるとみんなが楽しくなるということかね。

Q:楽しそうじゃね。他になんで高校になって、がんばろうと思った。

授業のルールがゆるいというか。これまでは、授業中立ち歩いてはいけなかったけど、友だちに教える時は立ち歩いてもいい。

Q：部活はどう？

バトミントン部に入っているけど、練習日は先輩が決めて、大会に出てもいいし、出なくてもいい。出たい時は自分が先生に言ったらいいです。

Q:へー、生徒の思いを大切にしているね。ところでサファノは、将来どんな仕事をしたいですか。夢とか紹介してください。

植物学者になりたいと思っています。

Q:今、何か準備している。

興味を持った植物を見つけたら、図鑑を使って、ノートに写している。

大学にいて、植物の研究をしたいと思っている。

Q:サファノくんは、小学校の時から植物学者になりたいといっていたね。

最後に、ここにいる小学生や中学生にメッセージはありますか？

失敗してもくじけないでほしい。失敗は失敗で、しょうがないと思ったら

その失敗は乗り越えられるし、もっと気持ちを楽にして生活してほしいです。

Q:失敗してもいつまでも引きずらないで、気持ちをきりかえるということかな。

つまり、分からなかったことやできなかったことを、ずっとくよくよ考えないで、「また、がんばろう！」という気持ちに変えた方がいいということ。

リュウオ君（呉工業高校1年）

Q:機械科にはいっているけど、これからどんな資格をとっていこうと思ってる？

今は、まだ、勉強が始まってないけど、2年生になったら溶接や玉掛などの資格をとろうと思っています。

Q:資格を取るのは大変じゃろうね。勉強もむずかしいし、とれそうですか。

とらんと将来、仕事できんじゃん。

Q:すごいね。実は聞いた話ですが、この前テストがあって、ずいぶんがんばったようですね。

はい、クラスで3番でした。

Q:資格をとって、将来どんな仕事をしたいと思ってますか。

父さんが今やっている仕事、造船の仕事をしたいと思ってる。

Q:お父さんは、喜ぶじゃろうね。

いや、「やめた方がええ」といっている。

Q:なんで？

いつも「しんどいぞ。」といってる。

Q:じゃあ、別の仕事をしようと思ってる。

いや、父さんのような仕事をしながら、将来は職人さんをまとめる仕事ができたらと思ってる。

Q:職人さんを使う仕事か。でも、いろんなことを経験せんとできんよね。体も鍛えんといけんし・・・。

体を鍛えるために今、K1のジムにいったる。

Q:ほう、すごい。格闘技をして、何かいいことがありますか。

体力がつくし、自分に自信がついてきた感じがする。

Q:仕事以外に何か夢がありますか。

仕事をしてもうかったら、父さんにローレックスの時計をプレゼントしようと思ってる。

Q:じゃ、最後にここにいる小学生や中学生に何かメッセージをしてもらえますか。

小学生・中学生の時は、何をしたらいいのかわからなかった。

高校生になって今思うのは、自分の好きなことを早く見つけて、好きなことをやった方がいいと思う。自分が、何がすきなのか、何がしたいのか、それを自分でみつけてほしいです。小学校・中学校はすぎるのが本当にはやいです。

参加者の感想

ティエンさん（白岳中1年）

たくさんの高校の校長先生方からお話を聞いて、いろんなことを知り学ぶことができました。その中で結構衝撃的だったのは豊田高校です。豊田高校は海に面している高校で行事の中にシーカヤックがあり、カヌー部もあります。話を聞く前はそんな高校があると思わなかったし、聞いたことのない部活があったのですごく驚きました。海や雄大な景色を感じながら部活できるのはすごく楽しそうだし、自然との一体感を感じることができそうでいいなって感じました。

私が一番しっくりきた高校は呉港高校です。家からも近くて電車で移動する必要もないし、特に修学旅行などの行事がすごく楽しそうでした！

校長先生方のお話がすごくわかりやすくて「え！そうなんだ。」とか「へ～、なるほど！」と思うことがたくさんありました。受験や高校などはまだ考えていなかったけど、自分がやりたい仕事について学べる高校を選び、部活や行事も楽しめたらいいなと改めて思いました。

ユエンさん（白岳中1年）

私はまだ中一になったばかりであまり高校進学をかんがえる時期じゃないけど、一応いろいろな高校を知りたいので、きいてみました。

呉にはたくさんの高校があり、その高校のとくちょうや勉強、部活についていろいろ語ってくれました。いろんなところの校長先生が図や勉強の進路について詳しくおしえてくれたのでよくわかりました。自分がまだわからないことがたくさんあっていました。難しいはなし

だったけど、わかりやすいように工夫して詳しくおしえてくれたおかげで理解できてよかったです。ガイダンスの話をきいて、いちばんしっくりきた高校は呉港高校でした。呉港高校はいろいろな行事があるし、じぶんの家からいちばん近い高校なのでいいなとおもいました。部活に女子バスケ部がないので、すこしなやんでしまいました。でも話をきいて呉港高校はとても楽しそうな高校だと自分は思いました。

② 外国につながる家族の集い

日 時： 令和6年8月31日(土) 15:00~17:00

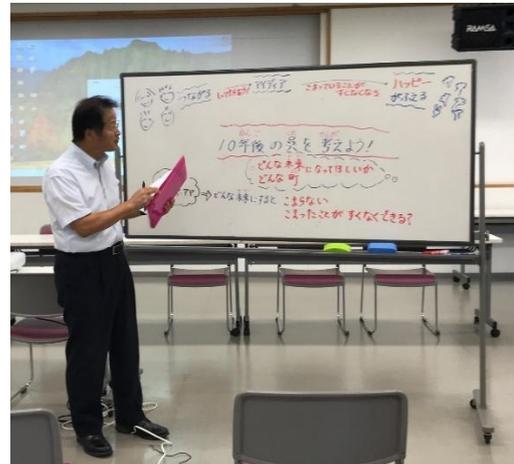
場 所： 広まちづくりセンター 502

参 加： 55人

- ・外国につながる家族 45人(6か国/14家族)
- ・講師と支援者 10人
- ・講師 小島祥美先生(東京外国語大学 多言語多文化共生センター長)
- ・体操指導 宮迫純子先生(楽笑体操教室)
- ・支援者 地域協働課・呉東部外国人相談窓口・白岳小学校・ひまわり21ワールド・キッズ・ネットワーク

内 容： ①大人グループ 話し合い/子どもグループ 自由遊び
②楽笑体操
③振り返り

①—大人グループ 小島先生からのビデオメッセージを見て、意見交流しました。



小島先生が保護者に伝えたメッセージの一部

- * 子どもたちの話をたくさん聞いて、たくさんほめる。
- * 子どもたちと一緒にたくさん見て読んで、そのことについて子どもたちと話す。
- * 子どもたちの前で、悪口を言わない。
- * 子どもたちは、みんなの宝物。

①一子どもグループは、お絵描きや国旗かるた遊びなどをして楽しく遊びました。



②参加者全員で健康体操とダンスを楽しみ、リラックスしました。



保護者から寄せられた感想

王丹さん(三坂地小 保護者)

「外国につながる家族の交流会」を開いてくれてありがとうございました。

参加して楽しかったです。

小島先生が来られなくて残念でしたが、ビデオを見ました。

先生が勧めてくれた「PTAの活動に参加すること」って、私の場合、本当は参加したい気持ちがありますけど、なかなか一歩が踏み出せないです。今年、小学校運動会のボランティア募集がありました。行きたかったです。でも、大人の私も人見知りの所があります。だから学校のボランティアに参加しなかったです。

今日校長先生の話聞いて、自分の得意なもので何かつながる事ができたらいいなと思いました。これからも日本で生活します。自分が出来る事をして、呉市でより良い生活を送りたいと思います。

この交流会では、外国の家族だけじゃなくて、日本人の家族にも外国人たちを知ってもらって、お互いに理解すれば、絶対呉はもっと住みやすい町になると思います。

③ 外国につながる家族のためのサンバ体験交流会

日時 令和7年1月4日(土) 午後3時～5時

場所 広まちづくりセンター 702

参加 47人

・外国につながる家族 24人(4か国10家族)

・指導者と支援者 23人

指導 広島サンバ連合「ホーザ・ジ・ヒロシマ」の皆さん

内容 ブラジルの音楽サンバを知り、様々なリズム楽器やダンスに挑戦!

最後に、広在住のメイリーさんが作詞作曲したサンバ曲を合奏しました。



いろんな打楽器がありました。音色も打法もいろいろでした。



ダンスも教えてもらいました。



親子で楽しむ🎵素敵な交流会になりました。

④ 外国につながる家庭のための学校生活ガイダンス*****

日時 令和7年2月8日(土) 14:00~16:00

場所 広まちづくりセンター 502

参加 48人

- ・外国につながる家族 27人(5か国10家族)
- ・学校関係 8人
- ・関係機関 5人
- ・地域の支援者 7人

講師 松尾恭子先生(こども日本語学習クラブ・埼玉県地域日本語教育コーディネーター)

テーマ つながりこそ大きな力 ~保護者・先生・地域で活動する私たち~



参加者の感想

劉さん(仁方小学校 新入学児童保護者)

この度、外国人の子どもの小学校入学に関するガイダンスに参加し、多くのことを学びました。

この説明会では、入学の手続きだけでなく、必要な書類や言語サポート、保護者が受けられる支援についても詳しく説明されました。

特に印象的だったのは、埼玉県からいらした先生が、ボランティアとしてどのように外国の方々と一緒に日本語を学び、生活を楽しんでいるかをお話しして下さったことです。その話を聞いて、日本に来たばかりの自分のことを思い出し、深く共感しました。また、今回の説明会では、先生が仁方小学校の教頭先生を招いてくださり、とても感謝しています。私は自分の不安や疑問をたくさん相談しましたが、教頭先生は一つ一つ丁寧に答えてくださり、おかげで不安が解消され、子どもの小学校生活に期待が持てるようになりました。心からありがとうございます。

最後に、この説明会を通じて、教育は子どもだけのものではなく、保護者の関わりやサポートも非常に重要であると改めて感じました。特に外国人家庭にとっては、現地の教育制度を理解し、積極的に関わるのが、子どもがスムーズに学校生活に適應する鍵となるのだと思います。日本の小学校教育についてより明確に理解できたとともに、異文化の中での教育の道は決して乗り越えられないものではないと強く感じました。

ナカノさん(横路小学校 保護者)

今回のガイダンスに出席して、あまり日本語ができない子供たちのために必要な事を学びました。また学校からのプリントも英語版をお願いできるという事が分かり、そうして貰えるととても助かります。

王さん(三坂地小学校 保護者)

毎年、小中学校の説明会に参加させていただいており、そのたびに多くの学びがあります。校長先生や先生方、地域で支援する関係者のお話を伺うことで、自分とは異なる立場の方々の考え方を知る貴重な機会となっています。

また、同じ外国人でも国によって悩みが異なることに気づかされます。特に、日本に来たばかりで日本語が全く分からない子どもや親たちが直面する困難について知ることができました。

このような説明会に参加できることは、非常に恵まれた機会だと感じています。普段、校長先生と直接お話しする機会はなかなかないため、ぜひ多くの外国人の保護者の方々にも参加していただきたいと思います。

ヤビクさん(天応小学校 保護者)

ガイダンスでの説明は理解できました。

子どもの学校の先生が参加していなかったため、質問できなくて疑問が残りました。それらは後で学校の先生と話して解決しました。

佃さん(広小学校保護者の付き添い)

ゲルサリノさんと共に出席させて頂きました。ありがとうございました。

沢山の方が出席されていて、また伊藤先生はじめ沢山の先生方や職員の方達が外国人の子供たちや保護者の方達のサポートを下さっていて、ゲルサリノさんも安心されていました。思いがけずライ君のランドセルも手に入り、とても喜んでいました。

私がこちらに来始めた当初は、学校のプリントなども日本語しかなくて、タガログ語に直してあげたり、記入を手伝ってあげたり、今も時々あゆみ渡しなどに同行して通訳していますが、ここ数年は、市の教育委員会の方から通訳の方が来て下さったり、プリントも(修学旅行など重要なものは)英語版を準備して下さっていて、お母さんたちも助かっています。ますます外国人の方が増えていきそうですので、このような取り組みやサポートは素晴らしいですね。

昨日のお話でも、ただ日本語を教えるのではなくて、それぞれのお国の文化や言葉も尊重して織り交ぜながら楽しく日本語が学べるように心を砕いておられ、素晴らしい事だと思いました。是非引き続きこのような取り組みを続けて頂きたいと思います。

⑤ 外国につながる子どもたちの支援者研修会

日 時：令和7年3月8日(土) 12:30~14:00

場 所：ひろ協働センター 会議室

講 師：奥村安寿子先生（広島大学大学院人間社会科学研究科 日本語教育学プログラム）

テーマ：子どもの『ことば』を知り、育て、支える：家庭・学校・地域の役割と連携

参 加：20人 ・学校関係3人 地域の支援者16人



講義のまとめ

- ・他者と関わる「ことば・外言」
- ・思考の道具となる「言語・内言」
- ・両者の性質と関係性を知り、発達の状況とバランスを観て関りや指導につなげる。
- ・家庭・学校・地域が各自の強みを活かし、互いを補完しながら、子どものことば／言語を育てる。

参加者の感想

深谷さん(ひまわり21)

子どもの発達と言葉習得の関係を深く分析した講義でした。

理解を深めることができました。

子どもを含む多様な学習者に対する日本語指導にあたるには、より幅広い知識が必要です。このような研修会を、引き続き企画していただくことを希望します。

佐々木さん（ひまわり21 / ワールド・キッズ・ネットワーク）

『ことば』と『言語』の違いや果たす役割を、私はこれまで深く考えた事はありませんでした。しかし、母国を離れて日本で生活する子供達にとって『ことば』と『言語』が、これから先の生活にいかに重要なのかを知りました。

また、『子どもたちのことばを育てるためには、家庭・学校・地域が役割を果たしながら補完しあっていくことが重要だ』と言う最大のポイントを学び、その肝になる役割の中に私たちがいるのだと改めて自覚しました。そして、その役割を果たすために、どのようにすれば良いのか、考える事ができました。

母国語を大切にしつつ、日本語で話す事を「怖くない!」「楽しい!」と思ってもらえるよう、コミュニケーションを取りたいと思いました。

『外国にルーツを持つ子供達』に重点を置いた講義でしたが、子供達だけでなく『日本語をもっと勉強したい』『日本語をもっと話せるようになりたい』と思う大人の学習者さん達にも通じるものを感じました。大変興味深く、新しい発見も多かったです。また、“今後、自分はどうすれば良いのか”と改めて考える機会ができ、参加して良かったです。またこういった講演会に参加したいです。

栗栖さん（ひまわり21 / ワールド・キッズ・ネットワーク）

「ことば」と「言語」どんなイメージですか。の問いかけから始まった研修会でした。ことばのやりとりを通して言語を獲得する。改めて認識した研修会でした。

家庭、学校、地域の活動に少しですが参加している事が、子どもたちの助けになっていれば良いなと思いました。

藤井さん（ひまわり21 / ワールド・キッズ・ネットワーク）

前は「家のことば」「学校のことば」そして「地域のことば」というテーマでお話ししていただきました。

今回は「他者と関わることば」「思考の道具になる言語」そして「ことばと言語の応用先」が「地域」であるという示唆をいただきました。一番記憶に残ったのが「ヒトはことばのやり取りを通じて言語を獲得する」というフレーズです。地域は「ことば・言語の応用先」…学習支援は動機付けということに思い至りました。

岡本さん（ひまわり21）

「ことばと言語」あまり考えたことはありませんでした。幼稚園の時から日本にいておしゃべりはできるのに、読み書きがあまりできない。勉強が嫌いなのかなと思っていました。

家では母国語。3才ぐらいから2カ国語は難しい。時間がかかるのが納得。宿題も普通クラスなのに他児と違う。支援級への難しさも知りました。不思議に思っていた事の理由が、少しわかった研修でした。